

OK

BES1

FOOLSCAP

こゝてんまり

60

敬学会賞第十九回入選作品

山一水

五ノ五
佐藤孝子



意匠登録 No.151492

- P1 (1)はじめた理由
- P2～3 (2)ごてんまりの名まえ
- P4 (3)えらびがた
(そうぞう画)
- P5 (4)使うざいりよう
- P6～12 (5)作り方せつめい
- P13 (6)そうぞう画
- P14～17 (7)作り方せつめい
- P18 (8)だらりひも
- P20～21 (9)どのくらい
- P23～24 (10)どのくらい
- P25 (11)ねだん
- P26～27 P30 (12)まとめ
- P28～29 (13)こういうもの

はじめた理由

しの田病院にいったら、入院して
いる人たち、たいへいの人たちが
ごてんまりを作っていた。

それを見ると、きれいで、きれいで、
自分でも「作りたいなあ。」と、
思いました。それで、ごてんまりを
作っているおじさんに、作り方をあ
しえてもらったのです。あんがい
きれいにできたので、もつと、もつ
と作って、ごてんまりの研究を、はうと
思う心もちがわいてきてやりました。

こてんまりの名まえ

こてんまりと言う名まえは、どうしてついたかをしりたかったので、あかあさんにきいてみたら、むかし城下町の鶴岡で知られるのはこてんまり。……金、銀、し、みどり、青などたさいな糸を、ひと針ずつたんねんにあやにさしこんで作るこのまりは、うがなこてんの美しさで、近ごろの売れ行きは、すばらしい。

元ろうのむかし、さかいはんて城中のおくがたや、はんしの娘たちが、つれづれにつづったのがはじまりというが、げんりうは、けまりからきたようだ。けまりは、いみやみやかな、へいあんちようじだい、くげやきをくしゃ

(2)

かいて、流行したものを、美しいまりをけって遊ぶ。しかしばんじに、しとやかな、庄内むすめは、はしたないとまりをひそめた。それからまりは、いたいに、そうよく品のおもむきをおびるようになり、あたがいには、きばえをきそって、ついには、スポーツ用具からみんげい品にかわった。

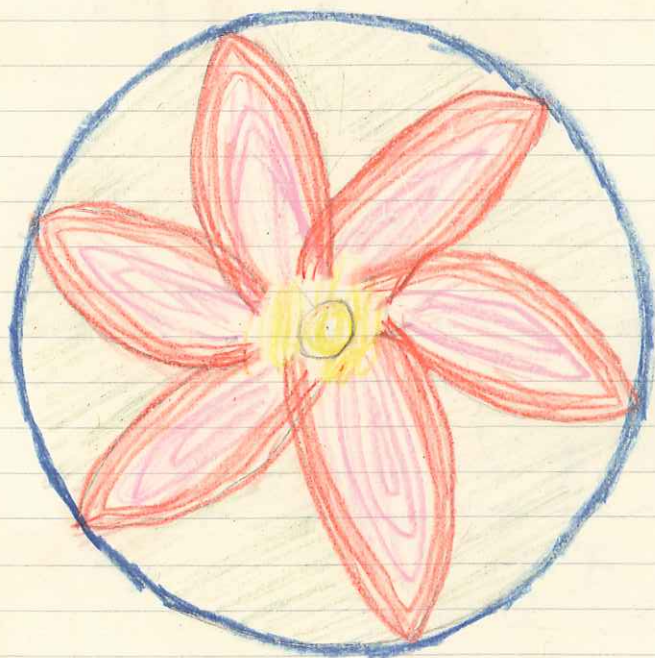
このようにこてんまりは、三百年のどうをほこるものだが、しかしこれがきょうどみんげい品として、全国に広く知られるようになったのは、ごくさいきんだそうです。

こてんでまりをけったから、そのまりをこてんまり

えらび方

はじめから、りりあんをかうきになると、
つくりおわったあとみにくできあがる
ので、紙にそうぞうしてから、りりあんを買
うようにする。りりあんのいろは、
たいたい40いろのがある。

そうぞう画



つかうざいりよう

1. ぬかか、もみが 5
2. ほうたい 2m ~ 3m
3. もめん糸 10円の1つ ~ 2つ
4. まちはり 6 ~ 20本
5. りりあん (自由)
6. こてんは 
7. ひも 
これぐらいのもの (ふとさ)
8. ビニールぶくろ
9. たんボール

1. 作りかたせつめい

1. ぬかやもみがらを、ビニールぶくろに入れて、**(わごむをしていけない)**
ゆいをつかって、まるく、かたくかためる。

2. かためたら、2mぐらいのほうたいで、ビニールが見えなくなるように四方からまく。**(たて、よこ、ななめ)**

3. ビニールがみえなくなったらもめん糸でほうたいが見えなくなるように、四方からまく。**(たて、よこ、ななめ)**

4. リリあんを2本にほどく
よこから見たとき
上から見たとき
上から見たときの  は 
に2組にきって、  をひはる。

(5)

そうすると、~~10cm~~ とまわりながら、ほどこけていく。10cmだったのが、倍の20cmになる。1たはせんがほどこく。

5. ほどこいたリリあんを糸でまいたまりに、し方から、ぐるぐるまく、**(たて、よこ、ななめ)**
あまり力をいれすぎると、きれてしまうので、あまりつよくしない、よわくしすぎてもだめです。



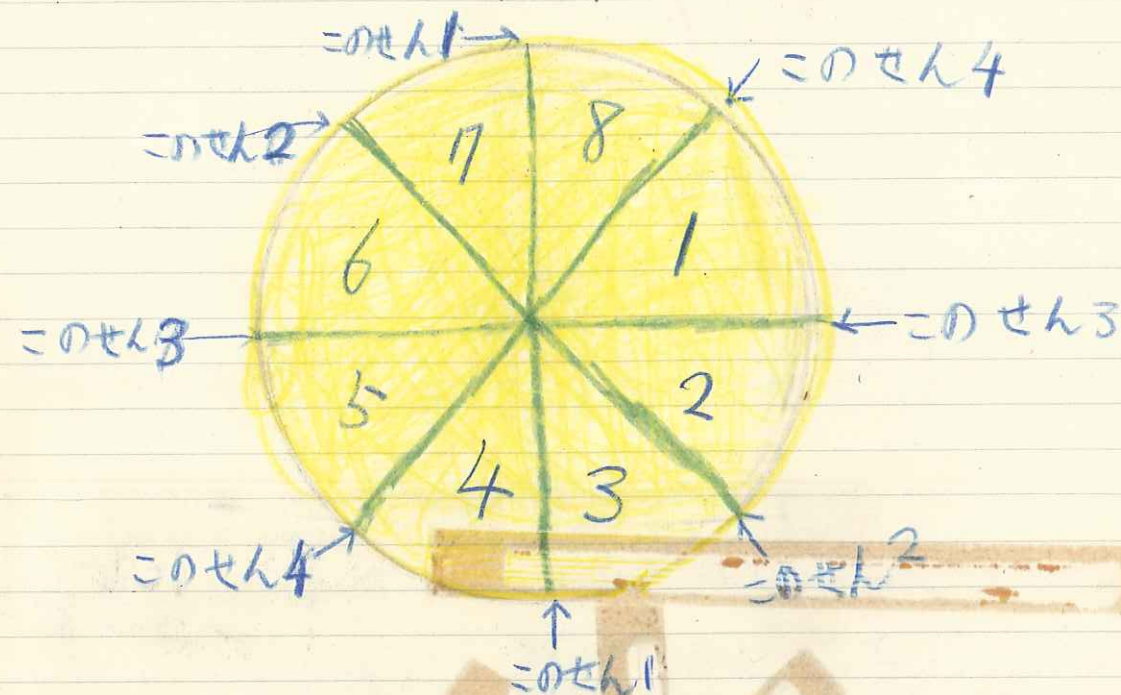
ひもで、リリあ たてよこ、ななめ がかさなったところ、まちはり をうつ。

そのまたうらにもうつ

そしてそのひもをほどこく

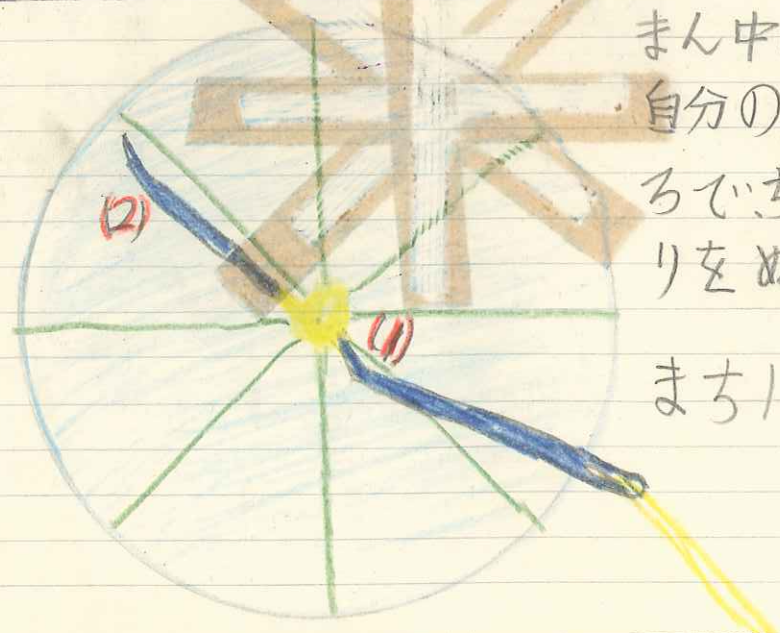
18

7 自分でそうぞうした、いろにてきして
いるりりあんを、はなびら8まいにする
なら、8とう分に、用をわる。



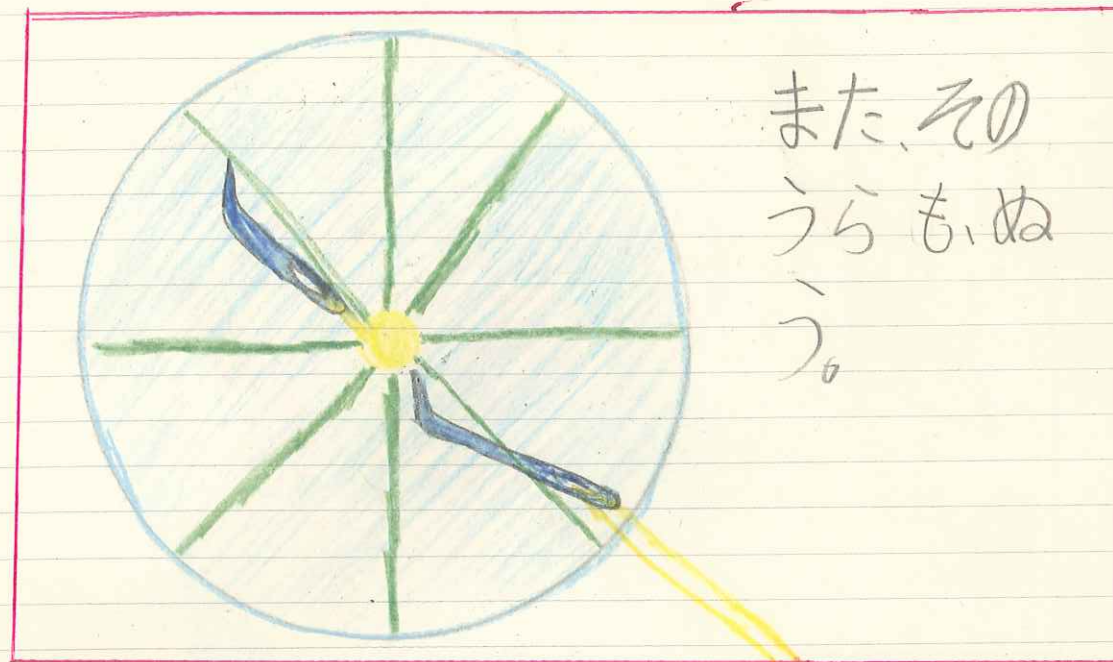
8

①



まん中のちよう点に
自分のすきない
ろでちよう点のまわ
りをぬう。

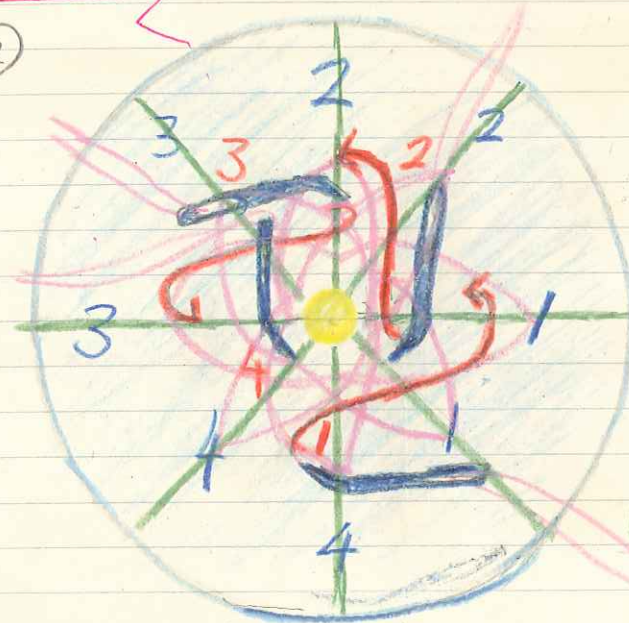
まちはりをとる。



また、その
うらも、ぬ
う。

9

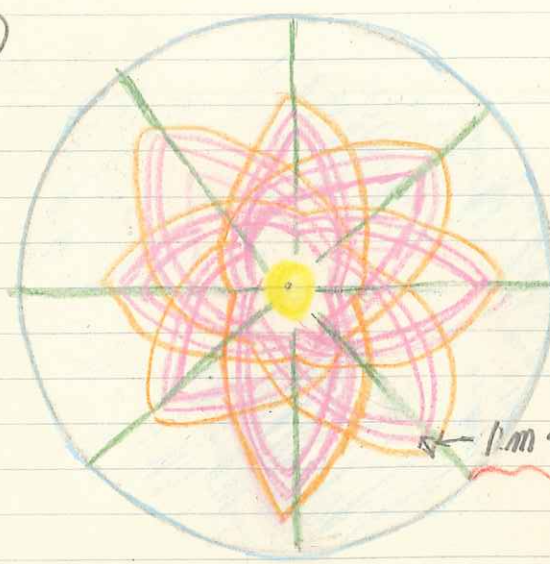
②



図のようにして
いき、それを3
〜7回ぐら
いくりかえす。

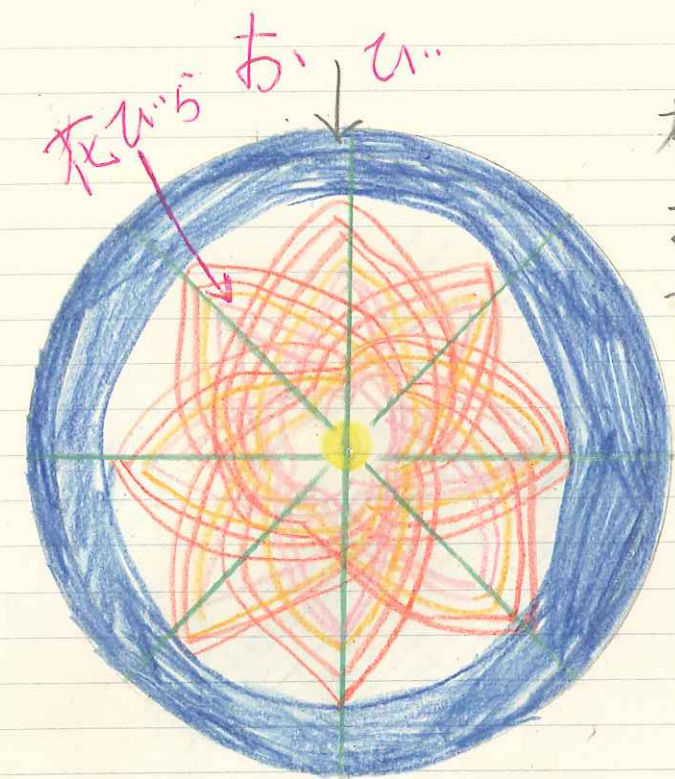
色は、そうぞう
した、中の色で
やる。

③



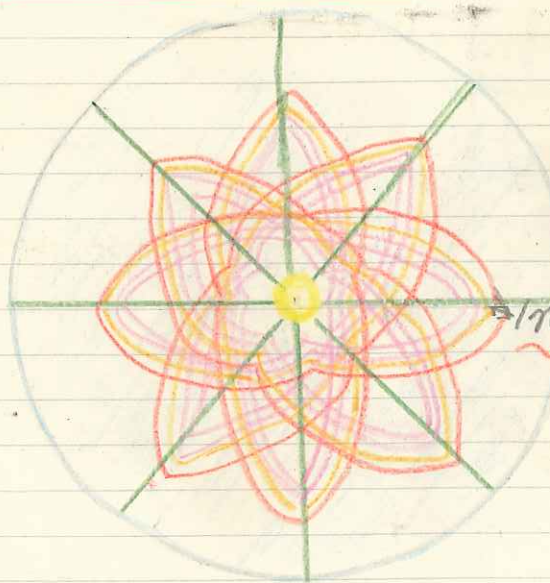
図のように、②
に、たいたい色
でぬった、図で
す。たいたい色
は、2〜5回まで
←1mmぐらいにする

⑤



右の図は、④に、
おひをしたもの
です。

④



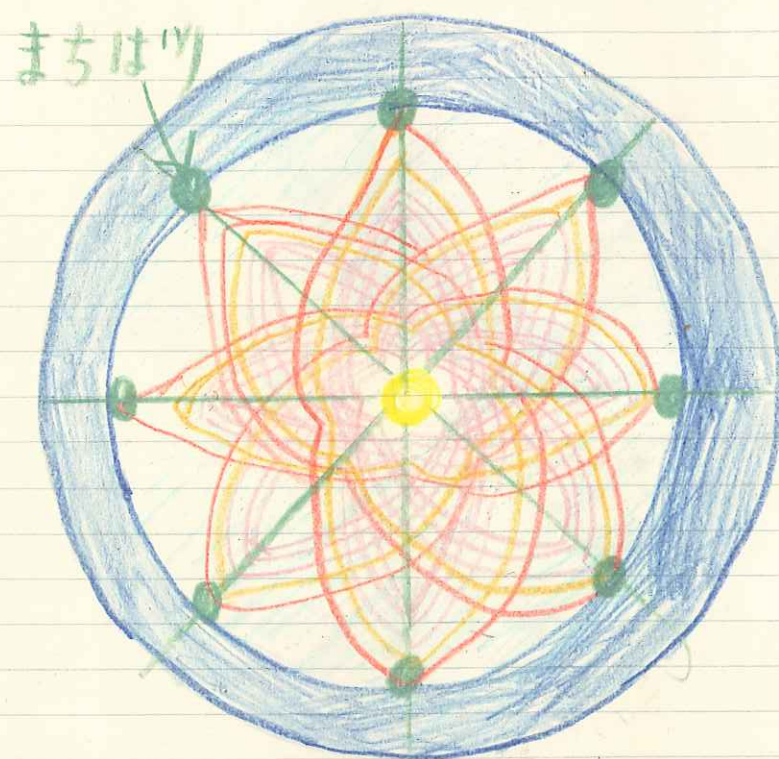
図のように、③
に、赤色でぬっ
た図です。赤は
2〜4回まで
←1mmぐらいにする

おひのまきかた

おひのまきかたは、ただ、はんじから、ぐる
ぐるまいていくだけです。きれいになら
べる。
まちはりは、しなくても、してもいい。でも、
したほうが、まきやすい。

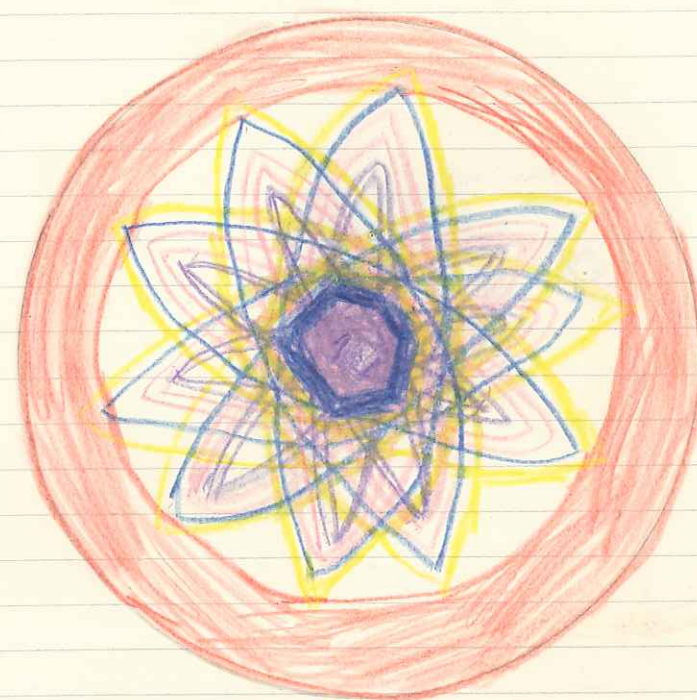
まちはりのうつ所

まちはりのうつ所は、下の図のところ



第一作り方終

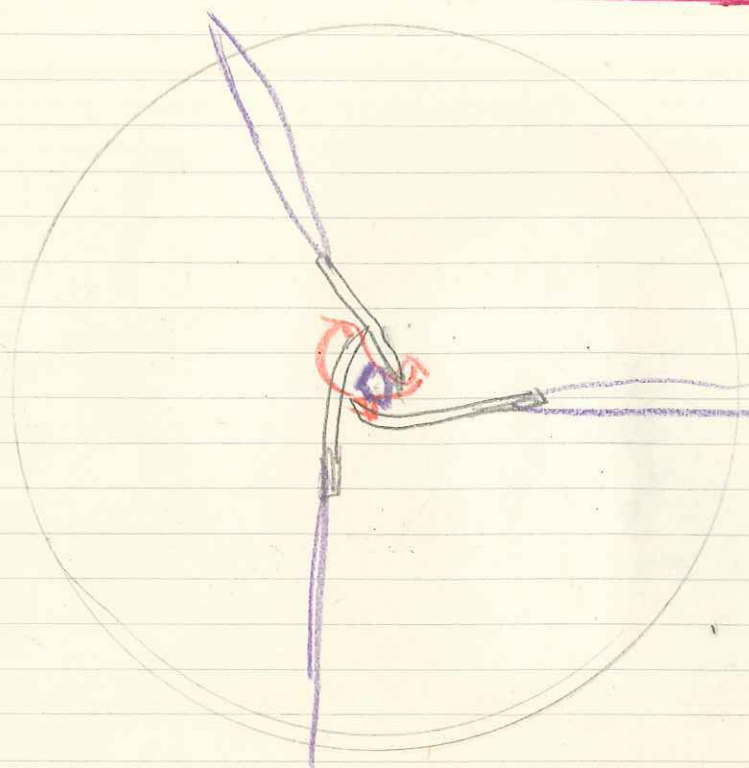
そうそう画



① 第一の作り方と、おないて、ひもをつか
って申しんをとる。申しんに、まちはり
をうつ。

作り方せつめい

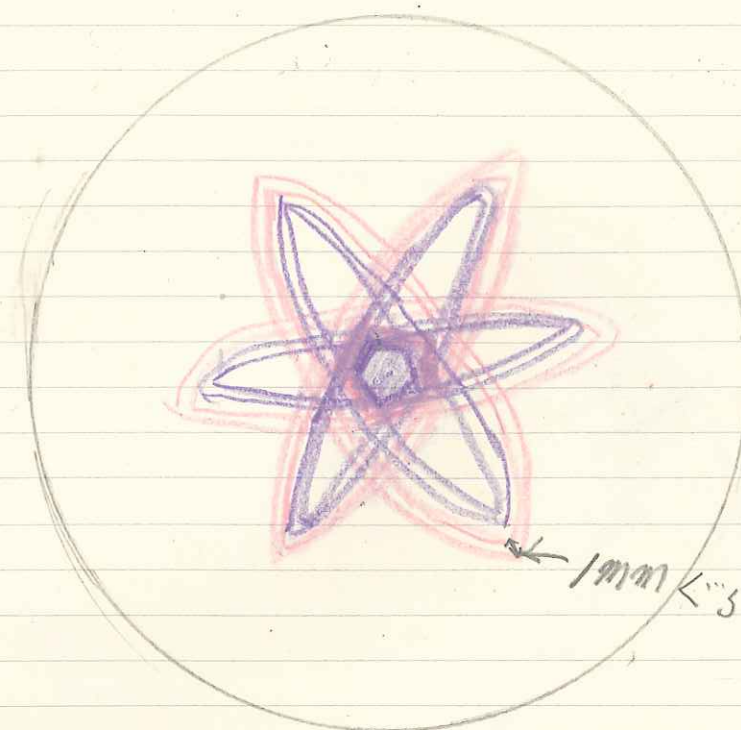
(1)



中心のまわ
りを右の回
のようにして
ぬう

まちばりを
とる

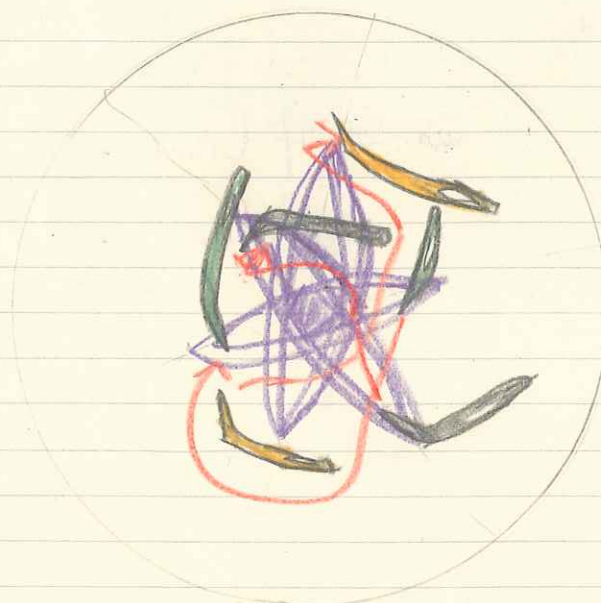
(3)



中心に、むら
さきでぬッ
たが、そのと
なりにもひん
くでぬう、

2~6

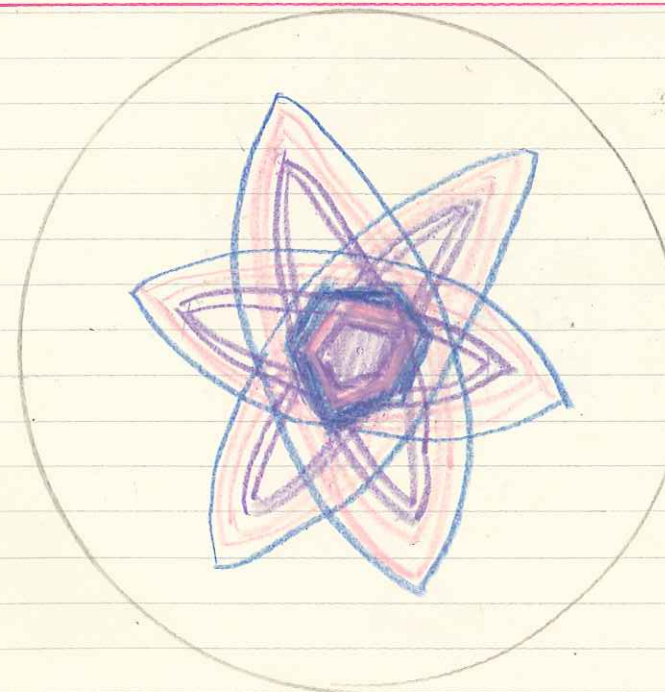
(2)



中心の色で、
右の回めよう
にぬう。

2~5

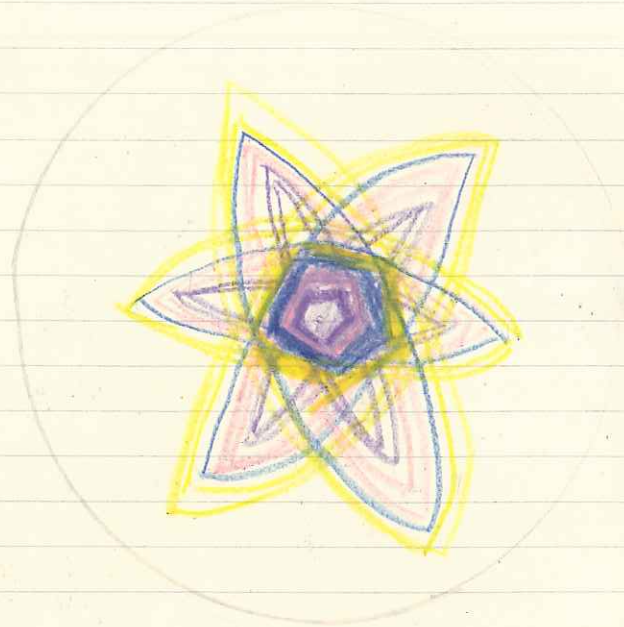
(4)



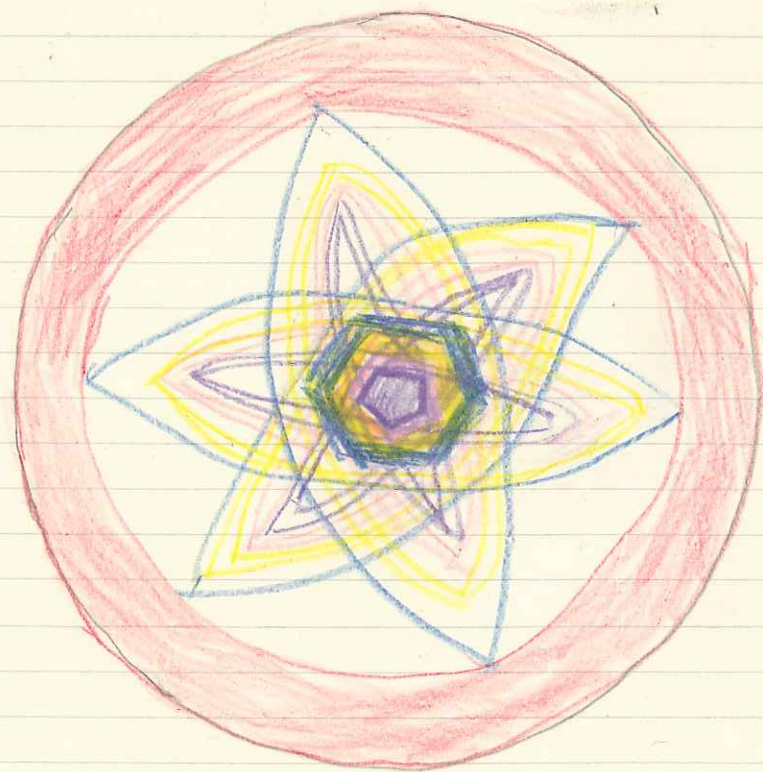
ひんくの次に、
赤で中心をとッ
て、花ひらき(2)
のようにして
ぬう。

2~6

(7)

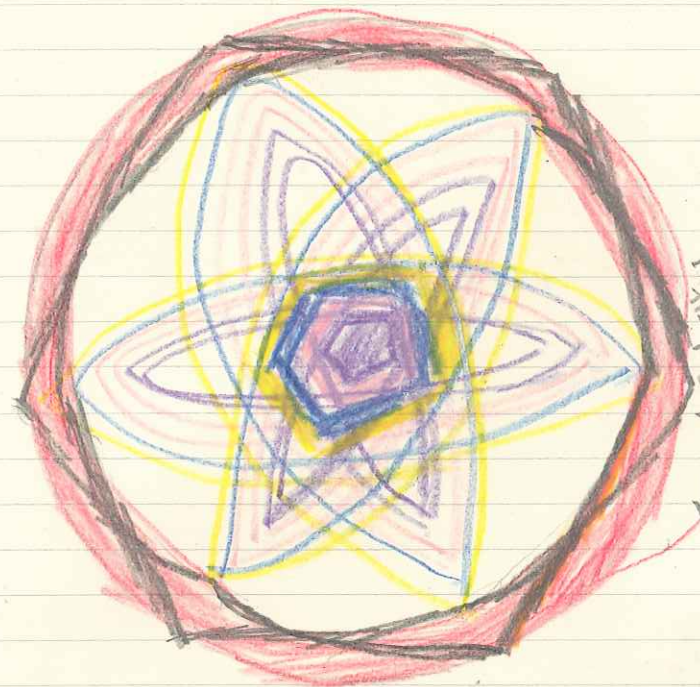


青でやたら、
きいろで、(2)の
やりかたでぬ
う。



花びらの
方は、あわ
たので、あ
ひをやる。
あひは、は
んじから、ぐ
るぐるま。

あひ



あひをぐる
ぐるまいてい
くと、一番さい
二のところを、
のりてくっけ
ても、かけるじ
るしのいどで
おさいたほう

かいいい。

第二作り方終

たらしひも

、リリあん3～10たばまで。

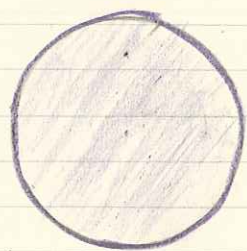
私は5たばでやった。



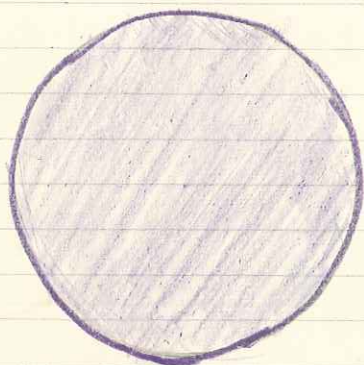
こういうふうにして、3～10たば
をきる。



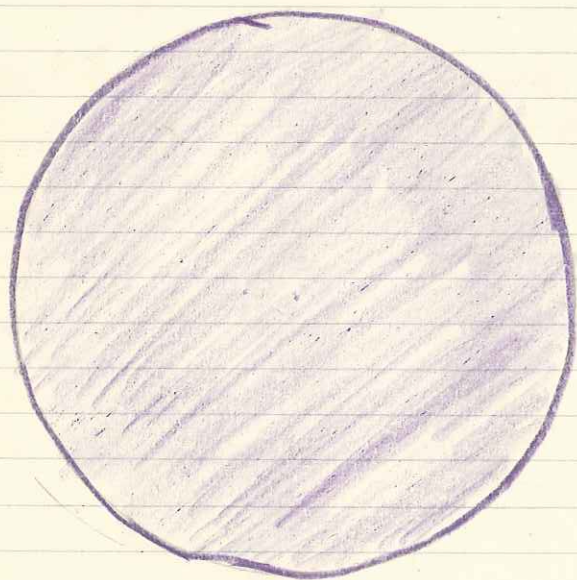
どのくらい



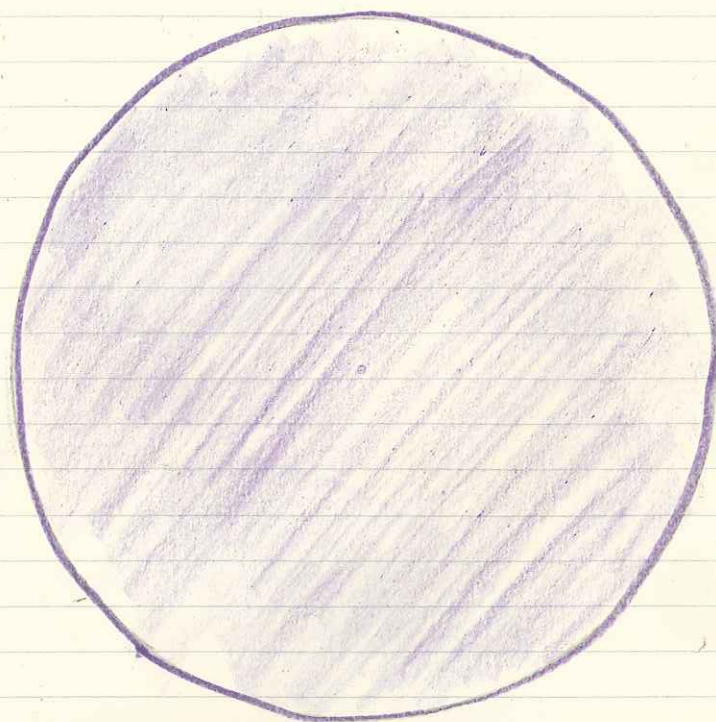
このくらいのこてんまりをつく
るとすると、ぬか、もみがら5を、5
円かえはまにあう。すこしのこる



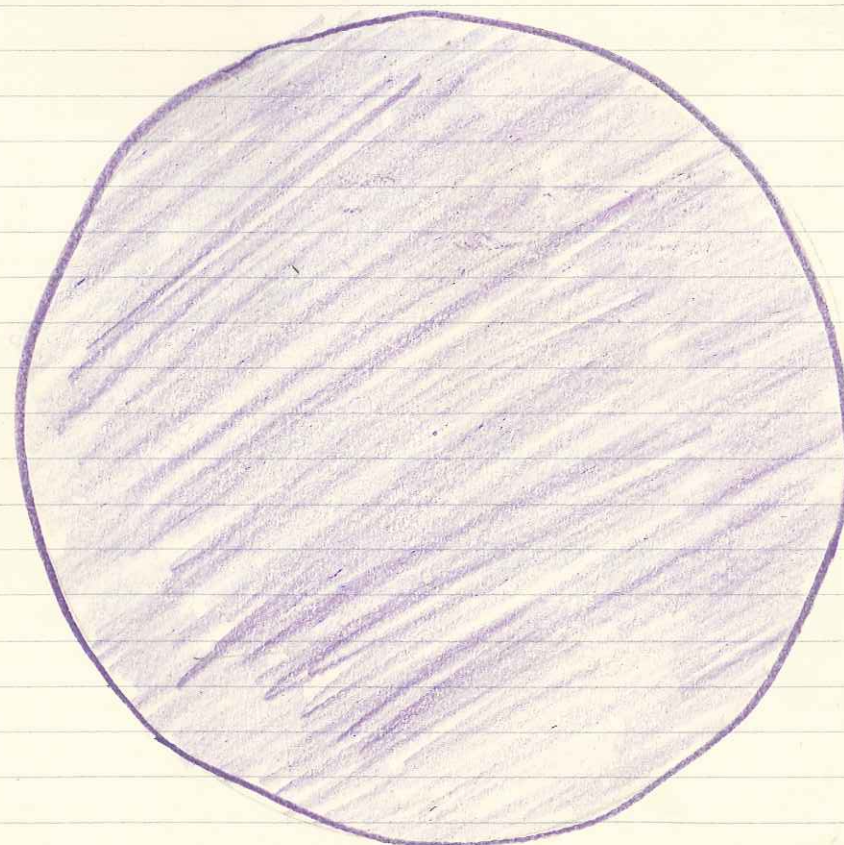
ぬか、もみがら5、5円せんじ
つかう。



ぬか、もみから10円せんじ
つかう。

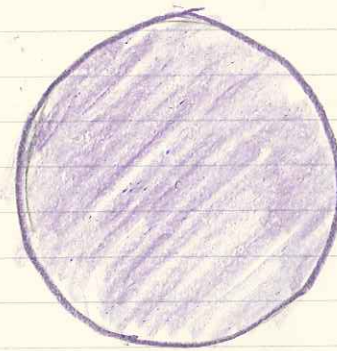


ぬか、もみがら5、
20円せんじ。

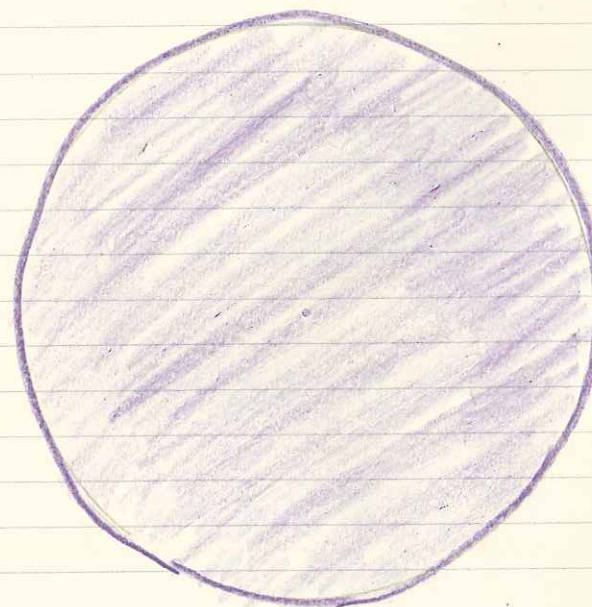


ぬか、もみ
がら5、30
円せんじ。

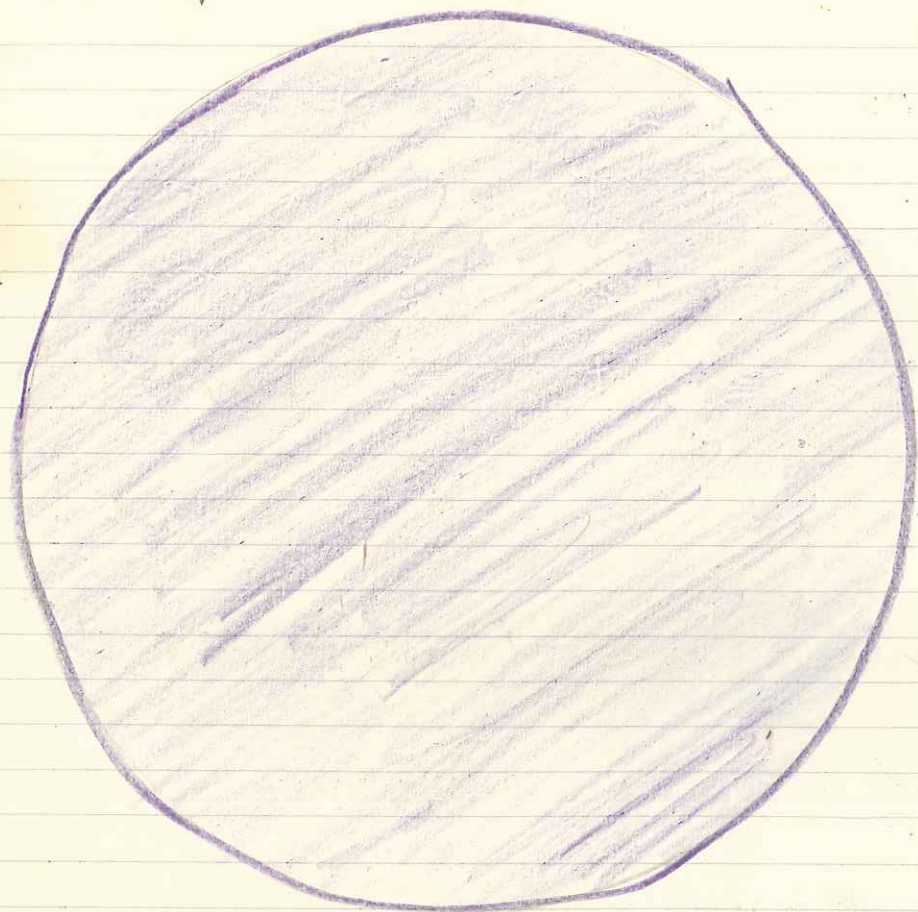
22
とりのくさい



このくさいの大きさにする
と、りりあん、ほといてやると、
ニたは。1本まんま、やると、
三たは。



ほといてやると、三たは。
1本まんまやると、四たは。



このくらいの大きさにすると、
リリあん、ほどいいでやると、太たは。
1本まんまやると、八たは。

ねたん

ほうたい	50円分くらい
もめん糸	10〜30円分くらい
まちはり	20〜50円分くらい
リリあん	1たは、7〜10円
こてんはり	1本 20円
リリあんせつと	200円

リリあんせつとは、デパートでうって
いる。しょくは、12しょくぐらいいはいつて
いる。

まとめ

私は、1番はやく、ビニールにぬかを
いれて、ゆひでまるくやるとき、たい
こがたになつたり、ゆひで、おしでみ
ると、ふわふわしたりした。

なん回も、なん回も、ちゅういされて、
やっと、うまくなった。だから、そうい
う所にちゅういする。

ほうたいでまくとき、もめんいとてま
くとき、もめんいとを、うづめるとき、
たて、よこ、ななめにきあつけて、まくこ
とに、ちゅういする。

リリあんをほどこるとき、2本こにほどこ
のに、4本こにほどこしてしまうと、めんど
うくさくなる。だから、ちゅういする。

27
だから、リリもは、長くても、みじかくて
も、セッかくつक्तのために、つけてみると、
べんなかんじがする。
そこに、ちゅういする。

作りおわつたあと、あまりべたべたと、
さわらないこと。

1番いいのは、くぎをうって、そこにさ
げてあければ、いつまでも、いつまでも、
ごめんまりは、よござません。

ぬか、もみからは、米屋さんなどに
うっている。

もみからは、うっていない所もある。

1番いいのは、おひやくしょうさん
からもらってくるといい。

こういうもの

ぬかというものは、上にはらっている、ビニールの中のもので、

上のぬかは、5円分にもなりません。

もみからというものは、上にある
ものです。

上のもみからは、5円分です。

わかったこと

ごてんまりの外がわをはっきり
させるには、中から外がわにだ
んたんこくしていけがよい。

中がわをはっきりするようにやるに、
は、外がわから、中のほうに、こくして
いけがよい。

ぬかのよいてんは、はりがさしやす
い。わるいてんは、あまりおもすぎる。

もみがらのよいてんは、かるいので
よい。わるいてんは、さしにくい。

でも、もみがらのほうがよい。

てつたってもらった人

おにいさん、おねえさんに、ごてんま
りの作り方を、てつたってもらいました。